

世界の国から

FROM THE WORLD

# ルワンダ共和国

Republic of Rwanda

## 混乱を乗り越え経済の復興へ



キブ湖を望む山岳地帯



**ローズマリー・ババジ女史**

ルワンダ投資・輸出促進庁  
投資促進部 部長

**Ms. Rosemary MBABAZI**

Director, Investment Promotion  
Rwanda Investment and Export Promotion Agency (RIEPA)

### 安定を取り戻す国内情勢

ルワンダは緑豊かな国土に恵まれ、古くからマウンテン・ゴリラの棲息地としても知られています。かつての大きな混乱で国内情勢が著しく疲弊しましたが、94年7月の内戦終結後、目覚ましい回復を遂げつつあります。

政治体制は中央集権制から地方分権へと移行しつつあります。産業面でも民営化が推進されるなど社会システム再構築のペースが急速に高まっています。

また、最近の世界銀行の報告書では、アフリカにおいて最も犯罪発生率の少ない国として紹介されました。

### 高品質な農産物の生産拡大

ルワンダの高地はこれまで良質なコーヒーの生産に適していると言われていましたが、思いのほか農民の生活改善につながりませんでした。幸い、2000年以降、米国国際開発庁(USAID)を中心とした技術指導により、ルワンダ南部地方では「スペシャルティコーヒー」として高品質なコー

ヒーを生産できるようになってきました。現在、このコーヒーは、英国をはじめとした欧州や米国に輸出され、高い評価を得ています。

この他、ルワンダではゼラニウムなどの切花やパッションフルーツといった果物も将来の生産品目の柱として注目されつつあります。ただ、いずれも事業として立ち上がってからの年数が浅く、機械化などを通じた生産性向上が求められています。また、重要な食糧源でもあるバナナは、国土の約25%で栽培され、料理用に用いられるだけでなく、大量のバナナピールも生産されて重要な換金源となっています。

### 日本との協力関係の進展を期待

今回の来日目的は、ルワンダの最新の投資環境を日本の皆さんに紹介すると共に、日本からルワンダへの投資と技術移転の機会を調査することでした。1月29日から2月17日までの滞在中に、日本の商習慣や将来我が国に移転可能と思われる日本の優れた技術に接することができました。とりわけ、日本企業の品質管理に対する真摯な姿勢には心を動かされました。

さらに、いくつかの具体的なプロジェクトに関して各企業より多くの提案をいただけた

ことは何よりの収穫でした。例えば、日本古来の養蚕技術、小水力発電所建設、メタンガス抽出のための技術など多くを学ぶことができました。ルワンダには収穫後の茎などバナナの廃棄物が大量にあり、UNIDO東京事務所が手がけているバナナペーパー/ファイバープロジェクトにどのようにつなげていくかも、帰国後の課題と感じています。

復興から発展へと歩み始めたルワンダは、千の丘と百万の微笑みの国とも言われています。今後日本の皆さんとの微笑みの交流が深まることを願っています。

最後になりましたが、今回協力してくださった政府機関、民間企業、教育機関、団体、NGOなどの皆さんに心より感謝いたします。



マウンテンゴリラ

### ルワンダ共和国

首都	キガリ
面積	2.63万平方キロメートル(四国の約1.5倍)
人口	841万人
宗教	カトリック教、伝統的宗教
通貨	ルワンダ・フラン
言語	フランス語、キニアルワンダ語、英語
元首	ポール・カガメ大統領
主要産業	農業(コーヒー、紅茶など)



首都キガリの中心部